

令和8年度 中期経営目標及び短期経営目標

	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための取組・方策	評価指標	具体的な取組
確かな学力	確かな学力の定着と主体的・対話的で深い学びの実現	基礎的・基本的な知識・技能の定着	① 学力課題を明確にした指導 ・考えが伝わるように根拠を明確にして書く ・適切な表現で説明する ・互いの意見に耳を傾け、洞察を深める。 ② 個に応じた指導（指導方法や教材・教具の工夫、ICTの活用）	①②全教科、主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善を行うとともに、書く・説明する場面または必要な情報を読み取る場面を取り入れた校内授業研究を一人1回以上実施し、成果と課題について全教職員で研修する。 ・生活アンケートで『もっと考えてみたい』『もっと学んでみたい』と思う」割合70%以上 ②実力テストで各教科20%以下の生徒の割合を10%以下にする。	①課題分析をもとに、基礎的な知識や用語を活用して思考や表現、説明する時間を日々の授業で設定する。 ①授業研究の実施後は、研究部が事後資料をまとめ共有化する。 ①②書く・説明する場面や必要な情報を読み取り活用する場面、要約する場面を取り入れた活動を日々の授業の中で実践していく。 ②学力課題のある生徒については、各学年会を中心に夏休み中の補習を3日以上実施する。また、各学期に一回以上、学習方法への助言・指導を行う。
		「表現力」の育成	① 自己表現の場の設定 ・1分間スピーチ等 ・授業・行事を通して ② 各種作品募集・大会等への積極的参加	①授業や行事の中で自己表現できる場を適宜設ける。 ・HRでのスピーチを各学期で一人一回以上。 ・帰りのHRで話し合い活動を取り入れる。 ・生徒アンケートで「自己表現をする力が伸びたと感じている」割合80%以上。 ②各種作品募集及び検定、中体連以外の大会等に一人一回以上参加する。	①各教科の授業の中で自分の考えや意思を表現するような場を設定し、生徒同士での交流を積極的に取り入れる。 ①HRで行うスピーチは、回を重ねるごとにレベルアップできるように各学年で工夫する。 ①話し合い活動だけでなく、メモをとる活動や要点を読み取ったりまとめたりする活動を学年の実態に応じて適宜取り入れる。 ②各種作品募集予定や検定の実施日程を示し、自分がどれに挑戦するのかを学期の目標とともに書かせる。
豊かな心と健やかな体	自己有用感の向上	自己有用感の向上	① 生徒会委員会活動の活性化 ② 安心安全な学校づくり ・一人一役の活躍の場の保障 ・学校・学級の中の居場所づくり ・組織的な生徒指導	① 生徒朝会の各委員会の発表1回以上。 ② ・生徒アンケートで「行事などをやり遂げるとき、自己の目標をたて達成できたか意識している」割合70%以上。 ・SSTを取り入れた班の話し合い活動を取り入れる。 ・生徒指導に関しての研修を、年1回以上	① 各委員会活動の活性化。（日常的な活動の導入） ② ・各行事の前に自分の目標をたて、それに向かう意識をつける。 ・学級をどの児童生徒にも落ち着ける場所にしていく。 ・授業規律や生徒への対応等に関して、教職員の共通認識にたって指導できるようにする。
	健康の保持増進と体力の向上	生活習慣の確立	① 食育の推進（生徒への指導、家庭や地域への啓発） ② メディア等の利用時間の自己管理 ③小中9か年を貫く、生活3か条「あいさつ」「返事」「学びの習慣」の徹底	①年に1回以上、栄養教諭による食育指導の時間を設ける。 ②生徒・保護者への啓発活動を学期1回以上実施 ③生徒アンケートで「自ら進んで挨拶ができる」割合80%以上。	① 栄養教諭を招聘し、全学年が年に1回以上講義を聞ける場を設定する。 ②各学期1回以上の啓発活動の実施。 ③授業開始、終了時のあいさつの徹底。
信頼される学校	地域・保護者から信頼され期待される学校づくり	地域とともにある学校づくり	① コミュニティ・スクールの推進（保小高及び地域団体との連携） ② 地域貢献活動の充実	①学校運営協議会の内容を保護者に学期に1回以上周知する。 ②生徒アンケート「地域のために役に立つ行動をしている」割合80%以上	①学校運営協議会において、職員・地域住民への啓発活動を考え、小中連携しながら進める。 ②花植ボランティアやクリーン活動に生徒が積極的に参加するように委員会活動を通して呼びかけを行うとともに、生徒が地域に貢献している姿を生徒や、HP等で保護者、地域に伝える。 ①②学校運営協議会と連携し、地域と子供をつなぐ取組を行う。
		働き方改革の推進	① 校務の情報化の推進（業務の軽減と効率化、情報共有） 一斉退校日の推進	①職員アンケート「校務の情報化に取り組んでいる」の肯定的評価90%以上 ②職員アンケート「一斉退校日に18時までの退校を心がけていますか」肯定的評価100%	①校務支援システム担当、情報担当を中心に、すべての職員が校務支援システムや授業支援ツールを効果的に活用できるように研修等を進める。 ②一斉退校日に職員が勤務時間内で校務に取り組むことができるよう、研修日課等を設定する。